



2月3日は立春。暦の上では春の始まりの日ですが、まだまだ寒い日が続いています。体調がすぐれない時は早めの受診や休養を心がけ、睡眠・栄養を十分にとって身体の回復を促しましょう。

看護師 萩原 あずさ

感染症の拡大防止に 引き続きご協力をお願いします

発熱や咳・鼻水・のどの痛み・下痢・嘔吐等の症状があり、風邪や新型コロナウイルス感染症、感染性胃腸炎と診断されるお子さんが増えています。症状が見られる場合は早めに受診し、その時のお子さんの症状に合わせて適切な治療を受けるようにしましょう。診断・検査結果は、早めに園にお知らせくださいますようお願いいたします。

こども園では集団生活となるため、本人・きょうだい・ご家族が症状がある場合も、家庭保育にご協力をお願いします。園では基本的な感染対策を行って活動していますが、対策をしても感染を完全に防ぐことは難しいため、集団生活に適應できる状態になってからの登園をお願いいたします。



身体測定日

0~3 歳児 2/13 (月)
4~5 歳児 2/14 (火)

当日は着脱しやすい服装で髪を結んでいる場合は頭の上には結ばないようにお願いします。



節分の豆の誤嚥に 気をつけて

奥歯が生えそろわず、かみ砕く力や飲み込む力が十分でない子どもが豆やナッツ類を食べると、のどや気管に詰まらせて窒息したり、肺炎を起すリスクがあります。節分の豆まきは、個包装されたものを使用するなど工夫し、事故のないようにしましょう。



冬場のやけどに注意

冬は暖房器具によるやけどの事故が増える時期です。ストーブやヒーターだけでなく、加湿器の蒸気、熱い食べ物に触れてのやけど、カイロやホットカーペットによる低温やけどにも注意が必要です。

誤ってやけどをしてしまったら、とにかく流水で冷やすこと。最低でも15~30分は冷やします。その後、症状によって病院で診てもらいましょう。

こんな時は救急車を！

- ・広い範囲にわたるやけど
- ・体表面積10%以上のやけど（子どもの場合、腕や足1本の面積がほぼ10%です。）

第2度（水ぶくれ・ただれ・激痛がある）以上のやけど

乳幼児は細菌に感染しやすいので、軽症と思っても念のため外科へ受診を。

衣服がくっついてはがれない

無理にはがさず、くっついた部分は残して切り取り、清潔なシーツなどで覆って外科か皮膚科へ。



低温やけど

意外と深いやけどになっていることも。気づいたらすぐに冷やして外科へ。

水ぶくれが500円玉より大きい

ガーゼなどで保護して外科へ。

顔や陰部のやけど

特に気をつかう場所。医師の適切な処置を。



花粉症の子どもが増えています

日本気象協会によると、今年の花粉の飛散量は非常に多い見込みで、2月上旬から飛散がスタートし、3月には各地でスギ花粉がピークとなるそうです。

鼻や目などのつらい症状は、集中力を低下させ日常生活に大きな支障を与えます。また、子どもの花粉症は気管支喘息やアトピー性皮膚炎などの他のアレルギー疾患との関わりがあることもあります。気になる症状が見られたら、早めに受診して症状に応じた治療を受けましょう。